

## 取組と指標・目標

「食」は私たちの命の源であり、その「食」に対する感謝の念や理解を深めるためには、食料の生産から消費に至るまでの食の循環を意識し、生産者を始めとした多くの関係者の様々な活動に支えられていることを理解することが重要です。

しかし、ライフスタイル等の変化により、県民が農作業など食料生産の場面に直接触れる機会が減り、普段の食生活を通じて農林水産業等を意識する機会が減少しつつあります。

食に対する感謝の心や、地域において長年培われてきた食文化を継承していくためには、動植物の命をいただいていることを認識することや、農業や生産者等への理解を通して食の循環を意識することが大切であり、そのために、生産者との交流、農業体験活動や、学校給食等への信州農畜産物の活用、食育ボランティアや関係団体等による郷土食・伝統食講座開催などの食育活動の推進により、理解促進を図ることが必要です。

健康志向・機能的志向・エシカル消費など多様化する消費者一人一人に適した食品・サービスが求められている中、宴会・外食及び家庭から発生する食品ロス削減に向け、更なる消費者理解の促進・行動変容の取組が必要です。食の循環を意識した長野県版エシカル消費<sup>※1</sup>を実践しながら、社会や地域で食育を推進する必要があります。

近年では、高齢者の一人暮らし、ひとり親世帯、貧困の状況にある子どもの増加及び様々な家庭環境や生活の多様化により、家族との共食が難しい人が増えています。家族との共食は難しいが、共食により食を通じたコミュニケーションを図りたい人にとって、地域等で様々な人と共食する機会を持つことは重要です。特に高齢者は調理や買い物が困難な方が多く、健康状態に合わせた食事を作ることが難しいことに加えて、新型コロナウイルス感染症拡大時の感染対策により孤食化が進み、低栄養やフレイルが懸念されます。

一方で、頻発している大規模災害に備え、防災知識の普及啓発は重要です。大規模災害発生時には、食料供給が滞ることが考えられることから、家庭でもローリングストック法<sup>※2</sup>等を活用し、家庭にあった備えができるよう情報発信を行うとともに、避難所における温かく栄養に配慮した食事の提供を含めた災害発生時の支援体制など、関係者が共通理解のもとで取り組める体制作りも必要です。

県民が健康で心ゆたかな生活を送るためには、県民一人ひとりが健全な食生活を日々実践するとともに、おいしく楽しく食べることを支える地域や環境を持続可能なものにしていくことが重要です。

### 県民の目指す姿

- 地域の農畜産物や食文化に関心を持ち、信州農畜産物の利用などによる郷土への理解を深めます。
- 食に関する感謝の気持ちを持ちます。
- 地域で共食したいと思う人が、様々な人と共食する機会を持ちます。
- 食品ロスの削減に取り組みます。
- 災害時に対応できるように、一人当たり最低でも3日分、可能な限り1週間分程度の食料品等を備蓄します。

#### ※1 長野県版エシカル消費

持続可能な社会の実現のため、人・社会・環境・地域などに配慮した消費行動を指す「エシカル消費」に、健康長寿県である本県独自に「健康」もその内容として加えたもの。

#### ※2 ローリングストック法

普段の食料品を少し多めに買い置きし、消費した分を補充する方法

## 県民の取組として望まれること

- 信州で生産される農畜産物を積極的に購入するよう努めます。
- 地域で行われる食に関する行事に積極的に参加し、食べ物の収穫や、地域の食材を使用した料理や郷土食・伝統食を作り、地域の方と一緒に食べるなどの体験をする機会を持ちます。
- 食生活は、自然の恩恵や食べ物の命の上に成り立つこと、生産者を始めとした多くの人々の苦労や努力によって支えられていることを理解します。
- 買い過ぎ、作り過ぎ、頼み過ぎをなくすなど、限りある資源を大切にするため、資源の循環に配慮し、食品ロスの削減に努めます。
- 日ごろから災害の発生を意識し、自分の食事は自分で整えられることを基本に知識と技術を学び、ローリングストック法による日常の食料品の備蓄に努めます。
- 社会課題や環境問題を自分事として捉え、エシカル消費の趣旨や意義について理解を深め、一人ひとりが自分にできるエシカル消費を実践することに努めます。

## 関係機関・団体の取組として望まれること

### (1) 市町村

- 関係機関・団体との連携により、子ども達に農産物の生産から収穫、加工、調理、販売までの一連の作業を体験してもらう農業体験の場の拡大を推進します。
- 男性向け料理教室、伝統食料理教室、おやこの料理教室等を開催し、地域に伝わる地域の食文化を伝えるとともに、共食の場を提供していきます。
- 介護予防対策等について、「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」を踏まえた健康支援型配食サービス等高齢者に向けた健康的な食事の普及を図ります。
- 関係機関と連携して、日ごろから地域の災害の特性やこれまでの被災経験を次世代へ継承するため、若い世代や子どもに対する食の面からの防災教育を推進します。
- 食品ロス削減に向け、食に関する情報提供を行います。

### (2) 関係機関・団体

- 食への関心を高め、農業・農村の役割、地域の食文化、命と健康の尊さなど食に対する感謝の心を深めるために、農業体験等を通じて行う食農教育の充実に努めます。
- 食生活改善推進員や農村女性団体、調理師会等において、郷土食や伝統食、県産農畜産物を活用した料理体験教室等の開催を通じて、食文化の伝承に努めます。
- 自然豊かな環境にやさしい農業で生産された、安全で良質な県産農畜産物の積極的な販売・活用や、有機農産物などマーケットニーズに対応した地場産物の生産に取り組みます。
- 小売業者においては、少量パックでの販売等の食品ロスをなるべく出さない方法での食品の提供に努めます。また、外食産業においては、宴会やパーティー等で消費者にあった量を提供する等、食べ残しが出ない取組に努めます。
- 旅館・ホテル・飲食店等において、県産農畜産物を用いたメニューの考案・活用に努めます。
- 共食により食を通じたコミュニケーション等を図りたい人が、地域で様々な世代と共食し、楽しさを実感できる場を提供していきます。
- 災害発生時には、県や市町村等と連携し、避難所等で要配慮者等への食支援を行います。

### 1 (3) 給食施設

- 2 ○ 学校給食や保育所給食等の集団給食において郷土食や伝統食を提供し、地域の食や文化、歴
- 3 史などの理解を深め、郷土への愛着が持てる取組を実践します。
- 4 ○ 有機農産物など環境にやさしい農業で生産された農産物をはじめとする県産農畜産物の活用
- 5 と食育活動を行います。
- 6 ○ 学校給食、病院、福祉施設等において、県産農畜産物を用いたメニューを考案・活用し喫食
- 7 者への普及啓発に努めます。
- 8 ○ 災害対応マニュアルの整備(非常食の備蓄、献立表の作成、食事提供に関する訓練の実施等)
- 9 により、災害時においても帰宅困難者や個別的な対応に応じられるよう努めます。

#### 11 長野県の取組

#### 13 《食文化の継承と地産地消・地消地産の推進》

- 14 ○ 郷土食や行事食を取り入れた学校給食の献立作成等について研修を実施するとともに、学校
- 15 給食に地域の農畜産物を活用できるよう地産地産に取り組むための仕組みづくりにつながる情
- 16 報を提供します。
- 17 ○ 児童・生徒の年間を通じた農業体験や農作業の楽しさを学ぶ学習活動を推進します。
- 18 ○ 学校と地域の生産者及び食育に取り組むグループとの連携による、学校給食での県産農畜産
- 19 物の積極的活用、生産者との交流や郷土料理と食文化に触れる体験などの取組を支援します。
- 20 ○ 食農教育、食文化の伝承等に関する講座を開催します。
- 21 ○ 信州の伝統野菜の認定や調理への活用など、食文化の継承のための活動を支援します。
- 22 ○ 農業者と給食事業者との調整を図るコーディネーターを配置し、学校給食や社員食堂での有機
- 23 農産物など環境にやさしい農業で生産された農産物の利用促進と食育活動の推進を図ります。
- 24 ○ 県内の宿泊施設や、飲食事業者等で使われる食材を県外産から信州産へ「置き換える」食の“地
- 25 産地産”<sup>※</sup>を推進するため、地域食材の情報提供や産地・生産者とのマッチングを進めます。
- 26 ○ 地域食材の持つストーリーや生産者の情報、各地域に伝わる物語、産地で伝承されている食べ
- 27 方などの情報を発信し、地域食材への理解を深め、地域の食文化の継承活動を推進します。
- 28 ○ 「おいしい信州ふード」の取組を通じて、県産農畜産物や郷土食・伝統食としての料理・加工
- 29 食品の魅力を情報発信する県民運動を進めます。
- 30 ○ 農村女性団体等による、地域の特色ある農産物を活用した伝統的な食文化の継承や新たなメ
- 31 ニュー開発などの取組を支援します。
- 32 ○ 学校給食や飲食店、宿泊施設、食品製造業者等において、県産農畜産物の利用が促進されるよ
- 33 う支援します。
- 34 ○ 信州農畜産物の活用や、郷土食・伝統食を作る等の食育活動が行えるよう女性農業者や食育ボ
- 35 ランティア等との情報交換及び研修等の機会を設けます。

#### 39 ※食の“地産地産”

40 地域で生産されたモノを地域で消費する“地産地消”の考え方に加えて、地域で消費するモノやサービスを、できるだけ地域で生産しようという“消費”を起点とした考え方に基づき、県内で消費する農畜産物について、県外産から信州産へ置き換えを推進する取組

1 《地域共生の推進》

- 2 ○ 長野県フードサポートセンター（ふーさぼ）において、フードバンク活動団体等と連携し、  
3 生活就労支援センター（まいさぼ）を通じ、生活にお困りの方に対する栄養状態の確保、食育  
4 の促進に関する支援を行います。
- 5 ○ 信州子どもカフェや子ども食堂において、食育ボランティアや栄養士等関係職種の参加を支  
6 援します。
- 7 ○ 高齢者の孤食に対応するため、市町村等における介護予防等高齢者対策と連携して多世代と  
8 の交流を含めた地域ぐるみの様々な取組を支援します。また、「新しい生活様式」を踏まえな  
9 がら、地域の通いの場を活用した「健康支援型配食サービス」の推進により、地域高齢者の低  
10 栄養予防、フレイル予防を行います。

11  
12 《災害時の対応》

- 13 ○ 被災しても健康に過ごせるよう、バランスよく食事をとるための知識と技術の普及と高齢  
14 者、アレルギーを有する方等に配慮した食品を備えておくことの必要性について、長野県栄養  
15 士会災害支援チーム（JDA-DAT 長野）など関係機関と連携して普及啓発に取り組みます。
- 16 ○ 給食施設等へ災害対応マニュアルの整備等について様々な機会を通して普及啓発及び取組の  
17 促進を行います。
- 18 ○ 温かく栄養にも配慮した食事（副食）を避難者に提供するため、キッチンカー事業者との連携  
19 体制を構築します。

20  
21 《環境と調和のとれた持続可能な消費行動への配慮》

- 22 ○ 農業、歴史、世界の動きと日常の食とを結びつけ、広い視野に立って食の大切さを考える学  
23 習を支援します。
- 24 ○ 家庭科や社会科をはじめとした各教科や特別活動の時間などで、食の循環や、食文化、地域  
25 の伝統食材や郷土食・伝統食に関して児童・生徒の理解が進むように取り組みます。
- 26 ○ 「消費者大学」や出前講座等において、関係部局と連携しながらエシカル消費の趣旨や意義  
27 について理解を含める普及啓発に取り組みます。
- 28 ○ 「食べ残しを減らそう県民運動～e-プロジェクト～」を通じて、家庭や外食時等の食品ロス削  
29 減を推進します。
- 30 ○ 食品廃棄物を活用して、新たな価値として生み出した商品を進めることで、食品ロスによる  
31 環境負荷軽減を進めます。

## 指標・目標の一覧

## 目指す姿

指 標	現状 (2022)	目標 (2027)	目標数値 の考え方	備 考 (出典等)
作ることができる郷土料理や伝統食が1種類以上ある人の割合(15歳以上)	<2019> 48.0%	増加	現状より増加	県民健康・栄養調査
食べ物を残すことをもったいないことだと思う児童生徒の割合		増加	現状より増加	児童生徒の食に関する実態調査
	小5 81.2%			
	中2 77.2%			

## 県民の取組

指 標	現状 (2022)	目標 (2027)	目標数値 の考え方	備 考 (出典等)
1人1日当たりの一般廃棄物排出量	<2020> 807g/人・日	<2025> 790g/人・日	長野県廃棄物処理計画(第5期)の目標値	環境省：一般廃棄物処理事業実態調査
エシカル消費を理解している人の割合	<2022> 12.8%	<2027> 40.0%	第3次長野県消費生活基本計画の目標値	県政モニターアンケート調査

## 関係機関・団体の取組

指 標	現状 (2022)	目標 (2027)	目標数値 の考え方	備 考 (出典等)
食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店の増加(県産農産物利用の飲食店、弁当)(再掲)	<2021> 715 店舗	1,000 店舗	県食育推進計画(第3次)及び信州保健医療総合計画(第2次)の目標値を継続	県・長野市調査
売上高1億円以上の農産物直売所数及び売上高	63 施設 176 億円	73 施設 186 億円	長野県食と農業農村振興計画の目標値	農産物マーケティング室調査
学校給食における県産食材の利用割合(金額ベース)	69.5%	75%	長野県食と農業農村振興計画の目標値	教育委員会
栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数		月12回以上	第4次食育推進計画	保健厚生課
有機農産物を使用した給食を実施した学校の割合(一品以上)	28%	40%	長野県食と農業農村振興計画の目標値	農産物マーケティング室調査
「食べ残しを減らそう県民運動～e-プロジェクト～」協力店登録数	<2021> 886 店舗	1086 店舗	長野県食品ロス削減推進計画の指標	資源循環推進課調査

指 標	現状 (2022)	目標 (2027)	目標数値 の考え方	備 考 (出典等)
信州子どもカフェ設置数・設置市 町村数	〈2021〉 159 箇所 46 市町村	270 箇所 77 市町村	長野県子ども・ 若者支援総合計 画	次世代サポ ート課
住民主体の通いの場の箇所数	〈2020〉 2,474	4,000	第8期長野県高 齢者プランの目 標値	介護予防・ 日常生活支 援総合事業 実施状況調 査
災害に備えて備蓄をしている給食 施設数	80.8%	増加	現状より増加と する	特定給食施 設栄養管理 報告書

1  
2

### 県の取組

指 標	現状 (2022)	目標 (2022)	目標数値 の考え方	備 考 (出典等)
地産地消シンポジウムの開催	1回/年	1回/年	現状維持	農産物マー ケティング 室調査
学校給食研究協議会	〈2021〉 実施	実施	現状維持とする	保健厚生課 調査
消費者大学・出前講座等の年間受 講者	〈2021〉 10,006 人	検討中	第3次長野県消 費生活基本計画 の目標値	くらし安 全・消費生 活課調査

3  
4  
5  
6  
7

※現状値は、本計画策定時の最新値を掲載しました。新型コロナウイルス感染症の影響により事業の中止や縮小があったため、掲載の値は通常時の状況を反映していない可能性があります。計画評価時の解釈には注意が必要です。